

## 授業概要

アメリカの中央銀行F R Bが大規模な金融緩和を終了し、金利を引き上げているのに、日本銀行は、逆に、金融緩和を進めています。おかげで、円安基調に転換し、長かったデフレ不況が終息しつつあるといわれています。2016年にアメリカでトランプ氏が大統領選挙で勝利しました。

トランプ政権は、アメリカファーストと保護主義をにかけています。自国中心主義を世界中から批判されています。

世界経済が激動するなかで、日本でおこなわれてきたアベノミクスといわれるものがはたして有効なのか、ということについて議論します。とくに、金融・証券市場の仕組みを詳しく取り上げます。

本演習では、こうした世界と日本経済の実態、金融・証券市場の仕組みを理解できるように指導します。

## 授業計画

|      |               |      |                |
|------|---------------|------|----------------|
| 第1回  | 演習の概要         | 第16回 | 戦前の日本経済の特徴     |
| 第2回  | 戦後の冷戦体制       | 第17回 | 日本の高度経済成長      |
| 第3回  | 冷戦体制の崩壊       | 第18回 | 高度経済成長の終焉      |
| 第4回  | グローバル化の進展     | 第19回 | 資産バブル経済の生成     |
| 第5回  | なぜトランプ氏が当選したか | 第20回 | 資産バブル経済の崩壊     |
| 第6回  | トランプ政権による混乱   | 第21回 | 平成不況への突入       |
| 第7回  | トランプ政権の何が問題か  | 第22回 | 金融ビッグバンとは      |
| 第8回  | トランプ政権の行方     | 第23回 | 証券ビッグバン        |
| 第9回  | ヨーロッパ経済の歴史と現状 | 第24回 | 日本銀行の異次元緩和     |
| 第10回 | ヨーロッパとアメリカの違い | 第25回 | 日本銀行のマイナス金利政策  |
| 第11回 | アメリカ中央銀行の金融政策 | 第26回 | アベノミクスの第一ステージ  |
| 第12回 | 欧州中央銀行の金融政策   | 第27回 | アベノミクスの第二ステージ  |
| 第13回 | 対テロ戦争とは       | 第28回 | 日本経済のあり方       |
| 第14回 | 新たな冷戦体制       | 第29回 | 日本の金融・証券市場のあり方 |
| 第15回 | 保護主義が強まるか     | 第30回 | 演習のまとめ         |

## 到達目標

今の世界が、いったいどうなっているか、日本は、世界のなかでどのような位置にあるか、日本の経済はどのような方向に進むのがいいか。さらに、金融・証券市場とはなにか、実際の日米欧の金融・証券市場をわかってもらうことを、到達目標とします。

## 履修上の注意

世界と日本の経済と金融・証券市場の動きを取り上げますので、日々の新聞を読んでおいてください。

遅刻3回で欠席1回とします。

とくに、銀行や証券会社や保険会社など金融機関への就職を考えている学生は大歓迎です。

## 予習復習

取り上げるテーマについて事前に予習し、終わったら必ず復習をしてください。

## 評価方法

演習での発表(50%)、発言(30%)や取り組み状況(20%)などによって評価します。

## テキスト

テキストはとくに使用しません。適宜、新聞記事や資料を配布します。

## 授業概要

経済には、なぜ変動があるのでしょうか。それは、政府の経済運営が間違ってしまった結果なののでしょうか。多分にその要因はあるかとは思いますが、しかしながら、もしそうなのだとすれば、どこがどのように間違ってしまったのか、それを修正するためにはどうすればよいのか、については、経済の仕組みを理解する必要があります。なぜ好景気と不景気は交互にやってくるのか。不景気を克服するためにはどのような施策が求められるのか。そして、そもそも「景気」とは何か。

本基礎演習では、こうした経済の仕組みを理解するために、さまざまな角度から経済というものを考えられるように指導する。

## 授業計画

|      |             |      |               |
|------|-------------|------|---------------|
| 第1回  | オリエンテーション   | 第17回 | 回帰分析の方法1      |
| 第2回  | コンピューターの機能1 | 第18回 | 回帰分析の方法2      |
| 第3回  | コンピューターの機能2 | 第19回 | 回帰分析の方法3      |
| 第4回  | EXCELの機能1   | 第20回 | 回帰分析の方法4      |
| 第5回  | EXCELの機能2   | 第21回 | 回帰分析の方法5      |
| 第6回  | EXCELの機能3   | 第22回 | 回帰分析によるモデル分析1 |
| 第7回  | 表の作成と計算1    | 第23回 | 回帰分析によるモデル分析2 |
| 第8回  | 表の作成と計算2    | 第24回 | 回帰分析によるモデル分析3 |
| 第9回  | 表の作成と計算3    | 第25回 | 回帰分析によるモデル分析4 |
| 第10回 | 表の作成と計算4    | 第26回 | 回帰分析によるモデル分析5 |
| 第11回 | 表の作成と計算5    | 第27回 | 回帰分析による予測1    |
| 第12回 | 適切なグラフの作成1  | 第28回 | 回帰分析による予測2    |
| 第13回 | 適切なグラフの作成2  | 第29回 | 回帰分析による予測3    |
| 第14回 | 適切なグラフの作成3  | 第30回 | 回帰分析による予測4    |
| 第15回 | 適切なグラフの作成4  | 第31回 | まとめ（授業内容の確認）  |
| 第16回 | 中間テスト       | 第32回 | 期末テスト         |

## 到達目標

経営現象や経済現象を理解するためには、データを適切に分析し、的確に解釈することが必要である。本講義では、そのために必要とされるデータ処理ができるようになることが到達目標である。さらに、パソコンでデータ処理をすることによって、コンピューターが社会において果たしている役割についても、理解してもらいたい。

## 履修上の注意

「基礎」演習とはいえ、あるいは「基礎」演習ゆえ、今後の専門科目を学ぶ上で基礎的な思考法を取得するためには、欠席、遅刻などは許されない。目に余るようなら、単位は永久に与えられることはない。

## 予習復習

毎回到わたって常に新しいデータを提示するので、取得したデータ分析の方法を適用して、予習と復習にあててもらいたい。毎回の講義の始まりに、課題について解説をする。

## 評価方法

毎回の参加状況、発表の準備状況、ならびに討議への参加状況などを踏まえて評価する。

## テキスト

教科書については、できるだけ手に入りやすく、またできるだけ安価なものを考えている。したがって、基礎演習が開始された時点で、参考書を含めて指定することにする。

授業概要

この演習は、会計学の基礎を学習することを目的としている。具体的な学習内容は、複式簿記の基本原則、企業会計基準の考え方や用語解説などである。演習の進め方は、基本的には専門書の輪読する方法をとるが、新聞や雑誌などを通じて会計の基礎学力を強化も行う。秋期の演習は、専門演習に備え、レジュメの書き方や発表の仕方の取得も合わせて進める。

授業計画

|        |            |        |                |
|--------|------------|--------|----------------|
| 第 1 回  | 会計学の意義     | 第 16 回 | 純資産の測定と認識 1    |
| 第 2 回  | 複式簿記の原理 1  | 第 17 回 | 純資産の測定と認識 2    |
| 第 3 回  | 複式簿記の原理 2  | 第 18 回 | 財務諸表の作成と解説 1   |
| 第 4 回  | 財務諸表の読み方 1 | 第 19 回 | 財務諸表の作成と解説 2   |
| 第 5 回  | 財務諸表の読み方 2 | 第 20 回 | 財務諸表の作成と解説 3   |
| 第 6 回  | 資産の測定と認識 1 | 第 21 回 | レジュメ作成と発表の仕方   |
| 第 7 回  | 資産の測定と認識 2 | 第 22 回 | 各自のテーマの報告と討論 1 |
| 第 8 回  | 資産の測定と認識 3 | 第 23 回 | 各自のテーマの報告と討論 2 |
| 第 9 回  | 負債の測定と認識 1 | 第 24 回 | 各自のテーマの報告と討論 3 |
| 第 10 回 | 負債の測定と認識 2 | 第 25 回 | 各自のテーマの報告と討論 4 |
| 第 11 回 | 収益の測定と認識 1 | 第 26 回 | 各自のテーマの報告と討論 5 |
| 第 12 回 | 収益の測定と認識 2 | 第 27 回 | 各自のテーマの報告と討論 6 |
| 第 13 回 | 費用の測定と認識 1 | 第 28 回 | 各自のテーマの報告と討論 7 |
| 第 14 回 | 費用の測定と認識 2 | 第 29 回 | 各自のテーマの報告と討論 8 |
| 第 15 回 | 春期のまとめ     | 第 30 回 | 秋期のまとめ         |

到達目標

- ・簿記知識は日商簿記 3 級以上の水準に達すること。
- ・発表レジュメの作成及び発表能力の向上

履修上の注意

- ・毎回必ず出席してほしい。
- ・演習は参加型授業なので、積極的に、発言、議論してほしい。

予習復習

毎回の学習テーマについて予習及び復習をしてほしい。

評価方法

講義時の積極性やレジュメ・発表のでき具合等を考慮して、総合的に評価する。

テキスト

- ・開講時に指示する。
- ・必要に応じて、プリントなどを配布する。

授業概要

日本をはじめとする多くの国々で高齢化が進む中、WHO の提唱する「健康寿命」（寝たきりや要介護状態にならず、元気に自立して暮らせる期間）を延伸する「健康寿命伸長産業」は今後我が国の主要産業となることが期待されています。男女とも世界一の「健康寿命」を誇る我が国の「健康ビジネス」についての理解を深めることを本演習の目的とします。大規模な市場が予測されている「高齢者向けビジネス」についても理解を深めていきます。また産業全体に「健康」というキーワードがどのように関わっているかについても考えていきます。グローバルな展開を見せている健康ビジネス企業研究も行います。さらに、文書作成や図表理解、論理的思考、コミュニケーションやプレゼンテーション能力の向上を目指します。

授業計画

|        |                    |        |                          |
|--------|--------------------|--------|--------------------------|
| 第 1 回  | 健康ビジネスの範囲と定義       | 第 16 回 | スパ・温泉ビジネス（1）             |
| 第 2 回  | 健康寿命とは？            | 第 17 回 | スパ・温泉ビジネス（2）             |
| 第 3 回  | 五感、ストレスと健康ビジネス     | 第 18 回 | アミューズメント・レクリエーションビジネス（1） |
| 第 4 回  | 健康業界研究（1）          | 第 19 回 | アミューズメント・レクリエーションビジネス（2） |
| 第 5 回  | 健康業界研究（2）          | 第 20 回 | サニテーション・ライフケアビジネス（1）     |
| 第 6 回  | フードビジネス（1）         | 第 21 回 | サニテーション・ライフケアビジネス（2）     |
| 第 7 回  | フードビジネス（2）         | 第 22 回 | シニアビジネス（1）               |
| 第 8 回  | サプリメントビジネス（1）      | 第 23 回 | シニアビジネス（2）               |
| 第 9 回  | サプリメントビジネス（2）      | 第 24 回 | グローバルヘルスビジネス（1）          |
| 第 10 回 | フィットネスビジネス（1）      | 第 25 回 | グローバルヘルスビジネス（2）          |
| 第 11 回 | フィットネスビジネス（2）      | 第 26 回 | グローバルヘルスビジネス（3）          |
| 第 12 回 | 休養・リラクゼーションビジネス（1） | 第 27 回 | グローバルヘルスビジネス（4）          |
| 第 13 回 | 休養・リラクゼーションビジネス（2） | 第 28 回 | セルフケアの重要性                |
| 第 14 回 | ネイチャービジネス（1）       | 第 29 回 | 健康ビジネス倫理                 |
| 第 15 回 | ネイチャービジネス（2）       | 第 30 回 | 健康ビジネスの未来                |

到達目標

- ・書く能力、コミュニケーション能力、論理的思考、プレゼンテーション能力が習得できる。
- ・健康業界が理解できる。
- ・健康ビジネスの種類や特徴が理解できる。
- ・高齢者ビジネスについて理解を深められる。
- ・グローバルに展開する健康ビジネス企業の特徴が理解できる。

履修上の注意

積極的な学生を歓迎します。

予習復習

やや専門的用語が多いので、事前学習および各単元後の復習の習慣を身につけるようにしてください。

評価方法

試験（最終レポート含む）60%、小レポート及びプレゼンテーション 40%

テキスト

教科書は特に指定しません。必要に応じてプリント等を配布します。

授業概要

3年次の専門演習で企業の経済活動に関する情報について『有価証券報告書』などを使用した演習を予定しているため、その際にゼミ生の興味関心を整理し、選択肢となる企業数を広げることを目的とする。そこで、2年次の基礎演習では業界の全体像を概観し、ゼミ生には何らかの課題についてレジュメを作成し、プレゼンを行う演習を予定している。また、就職活動に備えた準備段階では、自らが積極的に企業のことを知る姿勢が大切であるため、その姿勢が養われるように指導する。

授業計画

|      |                 |      |                  |
|------|-----------------|------|------------------|
| 第1回  | 業界分析の必要性        | 第16回 | 夏季休業中の課題のプレゼン    |
| 第2回  | 自動車①（全体像）       | 第17回 | 食品・飲料①（全体像）      |
| 第3回  | 自動車②（プレゼン）      | 第18回 | 食品・飲料②（プレゼン）     |
| 第4回  | 中古車・カー用品①（全体像）  | 第19回 | スーパーマーケット①（全体像）  |
| 第5回  | 中古車・カー用品②（プレゼン） | 第20回 | スーパーマーケット②（プレゼン） |
| 第6回  | 生活家電等①（全体像）     | 第21回 | 家具・インテリア①（全体像）   |
| 第7回  | 生活家電等②（プレゼン）    | 第22回 | 家具・インテリア②（プレゼン）  |
| 第8回  | 複写機・プリンタ①（全体像）  | 第23回 | 家電販売①（全体像）       |
| 第9回  | 複写機・プリンタ②（プレゼン） | 第24回 | 家電販売②（プレゼン）      |
| 第10回 | 建設・住宅①（全体像）     | 第25回 | アパレル①（全体像）       |
| 第11回 | 建設・住宅②（プレゼン）    | 第26回 | アパレル②（プレゼン）      |
| 第12回 | 金融①（全体像）        | 第27回 | 外食・中食①（全体像）      |
| 第13回 | 金融②（プレゼン）       | 第28回 | 外食・中食②（プレゼン）     |
| 第14回 | 金融③（プレゼン）       | 第29回 | 外食・中食③（プレゼン）     |
| 第15回 | まとめ             | 第30回 | まとめ              |

上記項目は目安であり、進度により適宜変更・調整する。

到達目標

- ・質疑応答にこたえられる責任をもったレジュメ・レポートの作成と報告を行う。
- ・業界の全体像を知るとともに、これまでの経験では出会わなかった企業に目を向ける。

履修上の注意

- ・登録前に必ず面談し、担当者の意図を理解した上で選択すること。
- ・履修指導を含め、通常の演習時間以外の活動（例えば、指定するエクステンションセンター主催の講座の受講）などを積極的に指示する。

予習復習

- ・予習：報告レジュメの作成。
- ・復習：課題レポートの作成。

評価方法

- ・演習時における積極的な参加姿勢とレジュメ、および提出された課題といった平常点を重視して評価する。
- ・ゼミ生に演習してもらうので、消極的な姿勢には厳しい。

テキスト

- ・『会社四季報 業界地図』 最新版、東洋経済新報社。

## 授業概要

日本経済の発展を支えている日本の企業は、グローバル経済の進展と共に、厳しい生き残り競争を繰り広げている。時には、思いもかけない大企業が破綻するなど、規模が大きければ生き残れるという保証はどこにもない。そうした世界的な競争の激化の中で、すべての日本企業は時代の変化に対応すべく、日々経営革新に取り組んでいる。それは、けっして大企業にとどまらず、企業数でいうと 99%を超える中小企業においても取り組まれ続けている。

本演習では、皆さんの働く場として想定されている企業が、今どのような経営環境に置かれ、どのような問題に直面し、次代の発展に向けてどのような経営革新に取り組んでいるかを学ぶことを通じて、日本の経済社会のあるべき姿を見通す能力を身につけることを目的としている。

## 授業計画

|        |                   |        |                   |
|--------|-------------------|--------|-------------------|
| 第 1 回  | 演習の概要             | 第 16 回 | 後期演習の概要           |
| 第 2 回  | 企業とは何か            | 第 17 回 | グローバル化と日本の大企業①    |
| 第 3 回  | 企業の役割は何か          | 第 18 回 | グローバル化と日本の大企業②    |
| 第 4 回  | 企業で働くということは①      | 第 19 回 | 上記①②についての発表と討議    |
| 第 5 回  | 企業で働くということは②      | 第 20 回 | グローバル化と中小企業①      |
| 第 6 回  | 上記①②についての討議       | 第 21 回 | グローバル化と中小企業②      |
| 第 7 回  | 日本経済の中での日本企業の役割①  | 第 22 回 | 上記①②についての発表と討議    |
| 第 8 回  | 日本経済の中での日本企業の役割②  | 第 23 回 | 働く場としての日本企業への期待①  |
| 第 9 回  | 上記①②についての討議       | 第 24 回 | 働く場としての日本企業への期待②  |
| 第 10 回 | 日本の中小企業の役割とは何か①   | 第 25 回 | 上記①②についての発表と討議    |
| 第 11 回 | 日本の中小企業の役割とは何か②   | 第 26 回 | 日本企業のあるべき姿とは①     |
| 第 12 回 | 上記①②についての討議       | 第 27 回 | 日本企業のあるべき姿とは②     |
| 第 13 回 | ゼミ生の企業に対する関心事の討議① | 第 28 回 | 上記①②についての発表と討議    |
| 第 14 回 | ゼミ生の企業に対する関心事の討議② | 第 29 回 | 日本企業と中小企業の今後について① |
| 第 15 回 | 前期のまとめ            | 第 30 回 | 日本企業と中小企業の今後について② |

各テーマに沿った自分の考えを整理し発表すると共に、他の受講生の考えに耳を傾ける。

なお、上記の内容は、ゼミ生の人数、関心事、さらには進行度合いによって、変更・調整することがある。

## 到達目標

大学生として、自分で文献を読み、理解した内容を整理し、発表、議論できる能力を身につける。  
特定のテーマに関して、他人と自分の考えがどのように違うのかを理解する能力を身につける。

## 履修上の注意

私たちが生きている現代の経済社会では、解決しなければならない問題が山積している。なにが問題なのか、なぜ問題が解決できないのか、どうすればいいかの問題意識を持って、日本経済、日本産業、日本企業、中小企業の実態に関心を持つことが、本演習を履修する上で重要である。

## 予習復習

- ・ 日本企業、中小企業に関する新聞記事等に関心を持つこと。
- ・ 各テーマごとに、具体的にレポート作成を指示する。

## 評価方法

- ・ 授業参加の姿勢や、レポート作成、発表等を総合的に判断して評価する。

## テキスト

- ・ テキストや参考文献については、必要に応じて演習中に指示する。

## 授業概要

大学教育では学生の自主性が重視されるが、この自主性とは誰かに与えられた「問題」「テーマ」を自ら分析し答えを発見することが大切であるという意味ではなく、自分自身が答えを得たい「問題」「テーマ」を自ら設定し、自ら答えを得るという意味である。本演習では低迷する日本企業(電気産業と自動車産業を中心に)の現状と再生の可能性という全員で共通テーマとして設定し、議論した上で、各自で自由に興味のある企業を選択し、日本企業が再度輝きを取り戻すためにはどのような取り組みが必要化についての自分自身の考えをまとめる。

## 授業計画

|        |                    |        |                   |
|--------|--------------------|--------|-------------------|
| 第 1 回  | 全体のスケジュールの説明       | 第 16 回 | 各自が企業を選んで検討(1 回目) |
| 第 2 回  | 日本企業の低迷            | 第 17 回 | 各自が企業を選んで検討(1 回目) |
| 第 3 回  | 日本企業の低迷            | 第 18 回 | 各自が企業を選んで検討(1 回目) |
| 第 4 回  | ITメーカーの低迷          | 第 19 回 | 各自が企業を選んで検討(1 回目) |
| 第 5 回  | ITメーカーの低迷          | 第 20 回 | インターネットの発展というチャンス |
| 第 6 回  | 自動車メーカーの現状         | 第 21 回 | インターネットの発展というチャンス |
| 第 7 回  | 自動車メーカーの現状         | 第 22 回 | インターネットの発展というチャンス |
| 第 8 回  | IT企業(ソニー、シャープ等)の分析 | 第 23 回 | インターネットの発展というチャンス |
| 第 9 回  | IT企業(ソニー、シャープ等)の分析 | 第 24 回 | インターネットの発展というチャンス |
| 第 10 回 | インターネットによるIT企業再生   | 第 25 回 | 各自が企業を選んで検討(2 回目) |
| 第 11 回 | インターネットによるIT企業再生   | 第 26 回 | 各自が企業を選んで検討(2 回目) |
| 第 12 回 | インターネットによるIT企業再生   | 第 27 回 | 各自が企業を選んで検討(2 回目) |
| 第 13 回 | 電気自動車による自動車企業再生    | 第 28 回 | 各自が企業を選んで検討(2 回目) |
| 第 14 回 | 電気自動車による自動車企業再生    | 第 29 回 | 後半のまとめ            |
| 第 15 回 | 前半のまとめ             | 第 30 回 | 後半のまとめ            |

## 到達目標

日本企業の再生のための一つの方法は、電機メーカーや自動車メーカーなどが現在のインターネットがさらに進化した「モノのインターネット」で世界に先んじたビジネスを確立することである。本演習ではこの可能性について論じる。

## 履修上の注意

社会に出る前の4年間に身につけなければならないことは、必要な情報がどこにあるのかを発見し、それを解釈する力を養っておくことである。現在の情報はインターネット上にある。本演習での学習を通じて、社会で求められるこのような力を養ってくれることを希望する。

## 予習復習

毎回各自が予習復習することは必須である。とくに発表予定者はしっかりと予習すること。

## 評価方法

単位取得のためには2/3以上の出席が大前提である。なお、遅刻(開始時間の20分以後の出席は遅刻と見なす)は1/2回の欠席としてカウントする。この大前提のうえで、講義中の議論に積極的に参加したかどうか、自らのテーマを発見できたかどうか、その答えをどれだけ得たかを基準として評価する。

## テキスト

未定。埼玉学園大学の情報メディアセンターを通じて無料でアクセスできる「日経BP」などに収録された論文・記事を予定している

授業概要

「日本経済新聞」の連載『私の履歴書』を教材に、松下幸之助、本田宗一郎、石坂泰三、中内功などの経営者の経営思想（経営観）に触れ、その「仕事の極意」、「プロフェッショナル論」、そして「人生の流儀」を学び、考え、議論することをおして、有名企業の創業者たちの言葉、考え方に触発され、履修者諸君の自由な発想とチャレンジ精神を高め、前向きな気持ちになるヒントを見つけることが目的である。

授業計画

|        |                                   |        |                                        |
|--------|-----------------------------------|--------|----------------------------------------|
| 第 1 回  | オリエンテーション（授業の内容、目標、進め方、評価方法などの説明） | 第 16 回 | 春期の内容を振り返って、秋期の目標を設定する                 |
| 第 2 回  | 世間の「常識」を覆した企業家たち（総論Ⅰ）             | 第 17 回 | 会社とは何か、なぜ働くのか（総論Ⅰ）                     |
| 第 3 回  | 逆境を乗り越えた苦勞人（総論Ⅱ）                  | 第 18 回 | 必ず頭角を現す経営者の条件（総論Ⅱ）                     |
| 第 4 回  | 大賀典雄（ソニー）                         | 第 19 回 | 土光敏夫（石川島播磨重工業）                         |
| 第 5 回  | 鈴木敏文（セブン&アイ・ホールディングス）             | 第 20 回 | 賀来龍三郎（キャノン）                            |
| 第 6 回  | 本田宗一郎（ホンダ）                        | 第 21 回 | 八尋俊邦（三井物産）                             |
| 第 7 回  | 松下幸之助（パナソニック）                     | 第 22 回 | 石坂泰三（東芝）                               |
| 第 8 回  | 伊藤雅俊（イトーヨーカ堂）                     | 第 23 回 | 大谷米太郎（大谷重工業）                           |
| 第 9 回  | 市村清（リコー）                          | 第 24 回 | 樋口廣太郎（アサヒビール）                          |
| 第 10 回 | 立石一真（オムロン）                        | 第 25 回 | 中内功（ダイエー）                              |
| 第 11 回 | 宮崎輝（旭化成）                          | 第 26 回 | 吉田忠雄（YKK）                              |
| 第 12 回 | 安藤百福（日清食品）                        | 第 27 回 | （補充教材：新世代経営者たち——ソフトバンク・孫正義、楽天・三木谷浩史など） |
| 第 13 回 | 議論：以上の経営者たちの共通点は何か、それぞれの特徴は何か。    | 第 28 回 | 議論：改めて考える——「会社とは何か、なぜ働くのか」             |
| 第 14 回 | 同上、つづき                            | 第 29 回 | 同上、つづき                                 |
| 第 15 回 | 春期の内容のまとめ                         | 第 30 回 | 秋期の内容のまとめ                              |

到達目標

- 1、経営史の基礎知識を習得すること。
- 2、自分の考えや意見を正しくはっきりと他人に伝える力を身につけること。
- 3、著名な経営者・創業者たちの人生を振り返ることによって、自分の人生目標を考えること。

履修上の注意

- 1、報告者は分担内容のほか、テキスト以外の内容や統計データの補充が望ましい。
- 2、積極的に議論に参加せず、居眠り、無気力・無関心の履修者はマイナス評価になるので、注意してください。

予習復習

報告者でなくても必ず予定の内容を通読してください。

評価方法

出席はもちろんのこと、授業参加の真剣さや積極性、発表準備の状況および報告内容、授業態度、期末試験を総合して評価する。

テキスト

石田修大『私の履歴書 名語録』、三笠書房、2008 年、1500 円+税  
※特に購入する必要はありません。



## 授業概要

経営戦略を中心とした経営学領域の演習である。

企業経営の事例に基づき経営者が語る経営・戦略などについて書かれた文献等を理解するための演習を行う。  
形式としては、分担にしたがって毎回担当者が発表し、全員で内容を吟味し議論するスタイルである。

これらを通じて、読解力・コミュニケーション能力・文章力など社会に出る前に身につけておくべき基礎能力の養成も図る。

## 授業計画

|      |                  |      |                |
|------|------------------|------|----------------|
| 第1回  | 概要               | 第16回 | グローバル経営－三菱ケミカル |
| 第2回  | 業績回復－カルビー        | 第17回 | プレゼンテーション④     |
| 第3回  | 業績回復－星野リゾート      | 第18回 | 人材育成－ローソン      |
| 第4回  | 業績回復－日本マクドナルド    | 第19回 | 人材育成－資生堂       |
| 第5回  | プレゼンテーション①       | 第20回 | 人材育成－京都銀行      |
| 第6回  | ITの活用－サイバーエージェント | 第21回 | プレゼンテーション⑤     |
| 第7回  | ITの活用－ネットイヤーグループ | 第22回 | モノづくり－日本電産     |
| 第8回  | ITの活用－松井証券       | 第23回 | モノづくり－花王       |
| 第9回  | プレゼンテーション②       | 第24回 | モノづくり－デルモ      |
| 第10回 | 新市場開拓－オイシックス     | 第25回 | プレゼンテーション⑥     |
| 第11回 | 新市場開拓－エイチ・アイ・エス  | 第26回 | 地方発企業－サラダボウル   |
| 第12回 | 新市場開拓－ジャパネットたかた  | 第27回 | 地方発企業－カイハラ     |
| 第13回 | プレゼンテーション③       | 第28回 | 地方発企業－東北電子産業   |
| 第14回 | グローバル経営－武田薬品工業   | 第29回 | 地方発企業－大垣共立銀行   |
| 第15回 | グローバル経営－ユニ・チャーム  | 第30回 | プレゼンテーション⑦     |

## 到達目標

- ・一定の文献読解力、文章力、コミュニケーション力を身につける。
- ・企業経営について関心を持ち、経営学領域・経営戦略分野で何を学ぶべきか理解する。

## 履修上の注意

- ・授業内で指定する文献を購入する必要がある。
- ・多くの文献を読みこなす。
- ・遅刻と欠席には厳しく対処する。

## 予習復習

予習には、レジュメの作成と文献の事前の精読を課す。  
復習には、プレゼンテーション用資料の作成を課す。

## 評価方法

読解力・文章力・発言力の向上により評価する。

## テキスト

日本経済新聞社編『経営者が語る戦略教室』日経ビジネス文庫

授業概要

授業内容は中級レベルの商業簿記と工業簿記を学習します。「初級簿記」を十分に理解していることが前提です。春期は主に両簿記の論点整理と答案練習を行います。工業簿記は費目別、部門別、総合原価、標準原価、直接原価計算を学びます。商業簿記では株式会社会計、剰余金、本支店会計と合併・事業譲渡などを主に答案練習で学びます。秋期は総合問題と過去問題集を中心に答案練習の勉強をします。各検定試験の11月と2月に沿った授業内容で行います。学習目標は日商簿記検定2級合格水準です。この「基礎演習」から職業会計人の道も開かれます。将来、公認会計士、税理士を目指す学生や国税専門官などの国家・地方公務員、そして本学大学院進学を希望する学生は受講してください。

授業計画

|      |                 |      |                  |
|------|-----------------|------|------------------|
| 第1回  | 工業簿記の体系的学習のコツ   | 第16回 | 総合問題① 合計残高試算表作成  |
| 第2回  | 論点学習① 費目別計算     | 第17回 | 総合問題② 精算表の作成     |
| 第3回  | 論点学習② 部門別原価計算   | 第18回 | 総合問題③ 貸借対照表の作成   |
| 第4回  | 論点学習③ 総合原価計算Ⅰ   | 第19回 | 総合問題④ 損益計算書の作成   |
| 第5回  | 論点学習④ 総合原価計算Ⅱ   | 第20回 | 総合問題⑤ 標準原価計算     |
| 第6回  | 論点学習⑤ 標準原価計算    | 第21回 | 総合問題⑥ 直接原価計算     |
| 第7回  | 論点学習⑥ 直接原価計算    | 第22回 | 総合問題⑦ CVP分析      |
| 第8回  | 6月主催「日商簿記」の解答解説 | 第23回 | 11月主催「日商簿記」の解答解説 |
| 第9回  | 商業簿記の体系的学習のコツ   | 第24回 | 過去問題① 仕訳と精算表     |
| 第10回 | 論点学習① 株式会社の会計   | 第25回 | 過去問題② 仕訳と試算表     |
| 第11回 | 論点学習② 銀行勘定調整表   | 第26回 | 過去問題③ 仕訳と総合原価計算  |
| 第12回 | 論点学習③ 社会の会計処理   | 第27回 | 過去問題④ 仕訳と部門別原価計算 |
| 第13回 | 論点学習④ 剰余金の処理    | 第28回 | 過去問題⑤ 仕訳と標準原価計算  |
| 第14回 | 論点学習⑤ 本支店会計     | 第29回 | 過去問題⑥ 仕訳と直接原価計算  |
| 第15回 | 論点学習⑥ 合併と事業譲渡   | 第30回 | 過去問題⑦ 仕訳とCVP分析   |
| 春期   | 定期試験            | 秋期   | 定期試験             |

到達目標

- ・中級レベルの商業・工業簿記を習得すること。

履修上の注意

- ・正課授業科目の「中級簿記」、「原価計算論Ⅰ」、「原価計算論Ⅱ」は必ず履修登録すること。
- ・エクステンションセンターの「日商簿記検定1・2級講座」を受講のこと。
- ・試験勉強の心がけ → 「反復学習」と「勉強を絶対あきらめない」ことです。

予習復習

- ・予習、復習として次の学習方法を毎日午前90分、午後90分練習して下さい。
- ・学習方法 ①テキスト目次を説明できること。②テキスト基本例題3回攻略。③過去問題集3回制覇。
- ・メディア学習のすすめ：「日商簿記1級・2級」のDVDを数回視聴して簿記の全体像を把握する。
- ・勉強場所：情報メディアセンターの個別ブース席を活用すること。

評価方法

- ・毎回の授業参加と定期試験で総合的に採点評価する。
- ・授業態度不良者等は「不可」とする。

テキスト

開講日に公表します。

授業概要

本演習は、経済と経営は相互に不可分との認識に基づき、「経営学を学び、日本経済を知る」を基本方針として運営されています。これは、経営学、経済学のいずれかに軸足を置きながら、両分野を学べる本学の特徴をゼミ活動において体现したものです。

基礎演習では、教養演習や1年次の講義を通して修得した経営学と日本経済の知識をさらに発展させることを目的としています。前期は日本経済の特質を財政、貿易、金融等について考察し、後期は経営学の知識を、基本文献に基づいて確固たるものにします。

授業計画

|      |                           |      |          |
|------|---------------------------|------|----------|
| 第1回  | ガイダンス ー目的、方法、評価等ー         | 第16回 | 組織の構成    |
| 第2回  | 日本の財政(1) ー財政学の基本概念と財政の役割ー | 第17回 | 組織の設計    |
| 第3回  | 日本の財政(2) ー財政の仕組みー         | 第18回 | 企業統治     |
| 第4回  | 日本の財政(3) ー財政の歴史ー          | 第19回 | 資本の構造    |
| 第5回  | 日本の貿易(1) ー貿易論の基礎ー         | 第20回 | 雇用の構造    |
| 第6回  | 日本の貿易(2) ー自由貿易原則と制度対応ー    | 第21回 | 経営戦略の基礎  |
| 第7回  | 日本と国際金融(1) ー外国為替市場ー       | 第22回 | 競争と差別化   |
| 第8回  | 日本と国際金融(2) ー国際通貨体制ー       | 第23回 | 経営資源の配分  |
| 第9回  | 日本と国際金融(3) ー国際金融実務ー       | 第24回 | 人材マネジメント |
| 第10回 | 日本の農業 ー日本農業の特徴と農業政策ー      | 第25回 | インセンティブ  |
| 第11回 | 日本の地域経済(1) ー地域経済学の基礎ー     | 第26回 | 計画と管理    |
| 第12回 | 日本の地域経済(2) ー地域経済の活性化ー     | 第27回 | 経営理念     |
| 第13回 | 日本の環境問題 ー環境経済学の基礎ー        | 第28回 | リーダーシップ  |
| 第14回 | 日本の社会保障 ー社会保障制度の概要ー       | 第29回 | 経営者の職能   |
| 第15回 | 日本の企業家 ー渋沢栄一の事績と思想ー       | 第30回 | 演習のまとめ   |

到達目標

本演習の目標は、教養演習や1年次の講義を通して修得した経済学・経営学の知識をさらに深めることを目的とします。経済学の基礎や日本経済の特質を踏まえて経営学を体系的に学び、専門演習に向けた確固たる基礎学力を身につけることが課題となります。

履修上の注意

演習は講義を中心に進め、テーマごとに議論する方式を採用します。履修者は積極的に議論に参加することが求められます。

予習復習

前期、後期ともに復習中心とした知識修得を目指します。演習で修得した知識をさらに深めるためにも、経済、経営関連雑誌や新聞に注意深く目を通すことが求められます。

評価方法

前期末、後期末のテストあるいはレポートの結果を70%、演習への参画度や取り組み姿勢を30%の割合で評価します。

テキスト

【参考資料】  
伊丹敬之・加護野忠男著『ゼミナール経営学入門(第3版)』(日本経済新聞出版社、2003年)。

## 授業概要

本演習では、本学卒業生が多く就職する小売業を例に、マーケティングについて指導する。  
まず、春期は学生の目線から、働くこととは何か、働く場所である企業とは何か、についてディスカッションを通じて学習した後、学生に身近なコンビニエンスストア等小売業においてどのようにマーケティングが活かされているのか、について指導する。秋期はマーケティングの全体像についてさまざまな企業の事例を通して指導する。

## 授業計画

|        |                          |        |                 |
|--------|--------------------------|--------|-----------------|
| 第 1 回  | 春期の演習の概要（初歩講義 1）         | 第 16 回 | 秋期演習の概要         |
| 第 2 回  | 学生間の自己紹介（初歩講義 2）         | 第 17 回 | 夏期課題の報告         |
| 第 3 回  | 働くとは何か？                  | 第 18 回 | マーケティングの概念とその変遷 |
| 第 4 回  | 企業とは何か？業界とは何か？           | 第 19 回 | マーケティング戦略と管理    |
| 第 5 回  | まとめ①                     | 第 20 回 | 市場機会の発見（環境分析）   |
| 第 6 回  | 小売業の種類                   | 第 21 回 | 市場機会の発見（STP）    |
| 第 7 回  | マーチャダイジング                | 第 22 回 | まとめ③            |
| 第 8 回  | ストアオペレーション               | 第 23 回 | 製品戦略            |
| 第 9 回  | マーケティング                  | 第 24 回 | 価格戦略            |
| 第 10 回 | 販売・経営管理                  | 第 25 回 | プロモーション戦略       |
| 第 11 回 | まとめ②                     | 第 26 回 | チャネル戦略          |
| 第 12 回 | ビジネスプランを考えてみる①           | 第 27 回 | まとめ④            |
| 第 13 回 | ビジネスプランを考えてみる②           | 第 28 回 | サービス・マーケティング    |
| 第 14 回 | ビジネスプランを考えてみる③           | 第 29 回 | 顧客満足と従業員満足      |
| 第 15 回 | 春期演習のまとめ<br>（夏期課題）レポート提出 | 第 30 回 | 演習のまとめ          |
|        |                          | 第 31 回 | レポート提出          |

## 到達目標

春期は小売業ではマーケティングがどのように活用されているのか、秋期はマーケティングとは何か、それぞれ自分の言葉で表現できることを目標とする。

## 履修上の注意

- ①春期に 1 度特別講師を招き講演して頂く。その講演をもとに、さいたま市ニュービジネス大賞（学生部門）にエントリーし、最終発表会を見学してもらう。
- ②GWや夏期休暇中に、学外授業として企業訪問等に参加してもらうことがある。
- ③川口 Fes.のボランティアや自治体主催のビジネスコンテストの見学などに参加してもらうことがある。
- ④正当な理由がなく遅刻する学生には厳格に対応する。また無断欠席は認めない。
- ⑤課題の〆切を守らない者については厳格に対応する。
- ⑥課題レポートのコピペには厳しく対処する。

## 予習復習

- ①レジュメは各自インターネットからダウンロードして準備してもらう。利用方法は講義で説明する。
- ②夏期・冬期休暇に課題あり（指定書籍 2 冊の読了とその感想）。
- ③その他毎回の講義の中で事前に課題を指示する場合がある。

## 評価方法

授業態度（50%）、提出課題の内容等（50%）により、総合的に判断し評価する。

## テキスト

テキストや参考文献は必要に応じて演習中に指示する。